



## <信徒委員会・各部からのお知らせ>

### ○総務部より

以前にもお知らせしましたが、聖堂にロビーの椅子を持ち込んで、壁際に座っている方がいます。できるだけ備え付けの椅子に座って、ミサに与るようになさってください。早く来た方は前の方から詰めてお座りください。やむを得ない事情で椅子を持ち込んだ方は必ず元に戻してください。ご協力をお願いします。

### ○成人養成部より

今後の予定

\*ミサ前勉強会

片山先生のYouTubeに学ぶ

日時 第3日曜日

10:00~10:40

場所 マタイの部屋

4/19 「エマオ 希望の道」

6/21 「三位一体の主日」

\*5/17 ロザリオの祈り(ミサ前)

どなたでもご自由にご参加ください。



### ○毎日のミサの年間購読について

2026年度の共同購入の申し込みを2月から、受付いたします。2026年5月から2027年4月の1年間の購読で、5200円前後になります。希望者数により金額が、決まります。

共同購入をすることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、小聖堂設置分の補填が、増えますので、どうぞ、ご検討ください。

不明な点はお問い合わせください。

「毎日のミサ」購読係 須田



### 教会のおいしい

#### 第2回 落の薑味噌・つくしの佃煮

小学5年生の春、前の年から通い始めた教会(青森県黒石市の黒石教会)の人たちと一緒に、秋田市の湯沢台の聖体奉仕会の修道院に行きました。私にとっては県外に出かけるのはこれが初めてでした。奥羽線の列車に乗って、秋田駅からバスに乗り、バス停からは雪解けでぬかるんだ田んぼの脇の道を結構歩いた記憶があります。

調べてみると湯沢台の聖母マリア像が涙を流し始めたのは1975年(昭和50年)の1月、私たちが訪れたのはその年の春先です。木製の像が涙を流すという不思議な出来事は、まだそんなに広がっていなかったのでは、と思います。

教会も修道院も古く小さな建物でした。

マリア様の前で祈った(この時のエピソードはおみや教会通信2024年5月号に掲載)後、修道院で昼食を戴きました。確か各自がお弁当を持参していた記憶がありますが、シスター手作りのおかずをふるまっていたきました。

その中につくしの佃煮がありました。春になると出てくるつくしは知っていましたが、食べられるとは思っていませんでした。驚き、こわごわ口にしました。ほろ苦く、子どもの味覚ではさすがに「おいしい」と感じることはできませんでしたが、春に採れるものは苦みがあり、それが栄養になるんだよ、とシスターに教えてもらいました。

帰りに秋田駅の売店で落の薑味噌の瓶詰を買いました。誰かに勧められたのが、自分で選んだのか覚えていませんが、父が大変喜んだのを記憶しています。

最近聞いたのですが、落の薑味噌は抗酸化、老化防止、新陳代謝促進、免疫力の向上に効果があるとのこと。がんと患っている方が食べたところ、血液検査の数値が下がったということです。

今でも落の薑味噌を食べると(残念ながらあの後つくしの佃煮を口にすると機会に恵まれていません)優しかったシスターと湯沢台の聖母を思い出します。

岩槻区 槻田

# 中央協へ出向です

主任司祭

フランシスコ 山口 一彦  
去年の7月10日のことです。

浦和の教区事務所で司教顧問会と責任役員会という会議がありました。少し早めに行つて会議室で待っていると、山野内司教様が私の所に来て来て、珍しく堅い表情のまま、こうおっしゃいました  
「山口神父さん、ちよつと話があまりです。いっしょに来て」  
「オレ、何かやらかしたのかな？」  
と思ひながら、ついていきました。



別室で向かい合つると、司教様は私と視線を合わせることもなく、どこか壁の方を向いたまま続けま  
す……

「神父さん、この話は断れませんからね」

「何事だろう？ イヤな予感がする」

「来春4月から中央協で事務局

次長として働いてもらいます」

「この話はもう、司教協議会会長の菊地枢機卿様と副会長の梅村司教様の承認ももらつています」

「なんだ、もう外堀を埋められてるんだ」

と思ひながらも、何とか抵抗しようと言葉を探していると、私の不満が顔に表れていたのか、司教様がこんなことをおっしゃいました  
「日本や世界への視野を広めることができる良いチャンスですよ」  
「別に、井の中の蛙のままでもいいですよ」

と、まだ納得できない顔で司教様をにらんでいると、こんな言葉が続きます……

「任期は1期3年だということですよ。3年間、日本の教会のため、犠牲だと思つて、行つて下さい」。

「犠牲」という言葉が胸に刺さりました。私たち司祭は多かれ少なかれ、十字架上で犠牲になられたイエス様に従つて、その後ろ姿を慕つて生きようとしています。

ですから、「犠牲だと思つて」という言葉は、私たち司祭にとって完璧な「殺し文句」です。そう

言われたら断れません。私はお答えしました……

「分かりました、承知いたしました」

この人事は、司教様だけでは決めることができないらしく、その直後の顧問会でも議題になり、全会一致で承認されました。その時の神父様たちの晴れやかな笑顔が忘れられません。  
「オレでなくて良かった」  
という安堵の笑顔に感じられました。私の被害妄想でしょうか。

どんな業界でも、現場での喜びを大切にするタイプの人と、本社のような所から現場の人たちをマネジメントしたいと考えるタイプの人がいます。私は前者です。つまり現場主義の人間です。進学塾で働いていた時も、子どもたちに直接教えるのが楽しくて楽しくて、という感じてした。管理職となつてからは授業を外れるのが通例なんです。私は最後まで抵抗して、週2日ほどは授業を持ち続けました。司祭になつてからも同じです。いくつもの教会と幼稚園を担当して時間的には忙しいけれども、信者さんや子どもたちに神様のことを伝えるのが楽しくて仕方なかったんですね。

皆さんは「中央協」って、ご存じですか。正式名は「カトリック中央協議会」と言います。日本にある15教区を包括する宗教法人です。その主体は司教団です。年に3回の司教総会と毎月開かれる常任司教委員会を始めとする様々な場で、司教様たちが日本のカトリックの舵取りをしていく所です。その司教様たちを陰で支える「縁の下」の役割、それを中央協は担っています。とても大切な組織です。ここが十分に機能していなければ、日本の15教区はまとまりを欠いてしまいます。私も理屈では重々承知の上で、それでも個人的には、どう考えても「つまらないだろうな」って思つちゃうんです。小教区と幼稚園という現場から離れるが、イヤだったんですね。

数日後、中央協を担当されている京都教区の大塚司教様から、呼び出しの連絡が入りました。東京都江東区潮見にある中央協の建物（写真）に伺いました。東京駅とディズニールランドの間、埋め立てられた人工島にあります。高層マンションとか大きな社屋や倉庫などが立ち並び、その向こうには、東京湾につながる運河と、そこに

架かる橋が見えます。栃木県や埼玉県の生活に馴染んでいる身としては、違和感だらけです。大塚司教様は、神学生時代の私がお自分の授業を受けていたことを覚えていて、ご機嫌な笑顔でおっしゃいました……

「よく受けてくれました。2期6年間が基本です。いろいろと大変だと思ひますが、よろしくお願いします」……

「6年間？ 話が違つちゃうよ」

オレ、71歳になつちゃうよと思ひながらも、（これも、イエス様の導きだ）と、観念しました。今は全てを前向きに考えるようにしています。きっと素敵な出会いもあるでしょう。学ぶことも多いでしょう。

皆さんの生活の上にも、思ひがけないことが突然降ってくるかも知れません。逃げたくなくなつたり、抵抗したり、誤魔化したりしたくなるでしょう。でもほとんどのことは、たぶん神様からの呼びかけです。勇気を出して、新しい世界にチャレンジしましょう。イエス様とマリア様が、きつと支えてくれることでしょう。たったの3年間でしたが、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。

† サモア～主に呼ばれて～ (47) †

佳美が来てから少したったころ、校長先生から昼間の時間を持って余しているようだったら、ちよつと手伝ってくれないかと打診がありました。時間は有り余るほどあるので、すぐに引き受けることになりました。

サモアでは日本の学校のように機械でチャイムを鳴らす仕組みではなく、事務をしている修道院長がベルを鳴らしていました。それを代わりにやるのと、簡単な事務の手伝いをする事になりました。

ベルを鳴らすのは、時計を見て時間になったら鳴らせばよいのですが、簡単な事務は英語が分からないとできません。英語は私と違って勉強してから来たわけではないので、ほとんど分りません。そのことが本人もストレスだし、校長先生としても困ったようでした。結局、話をして、やめさせてもらうことになりました。

5月下旬から、2学期と3学期の間の休みになりました。せっかくなので、サモアではないところを旅行してみようとなり、航空運賃も安いクック諸島に行ってみることにしました。

クックはニュージールランドが信託統治している島で、自治があり、独自の通貨も発行しています。硬貨に特徴があり、三角形や六角形、八角形など珍しいです。これは外貨獲得の手段で、海外にもっていったらうために、珍しい形にしているようです。

サモアからは飛行機で1時間ちよつとです。ほぼ南東に行ったところにあります。日本から

はかなり行きにくい地域になります。諸島なので、いくつか島があるのですが、航空便の関係で首都がある島に5泊の予定で行くことになりました。ラロトンガ島が国際線の就航している島で、面積は山手線の内側とほぼ同じくらいです。再入国許可をもらうのが必要なことは、分かっていたので、早めに校長先生に二人分お願いしました。航空機の予約はしましたが、ホテルは今のように入ターネットや電話で予約ができないので、向こうについてから探すことになりました。

ラロトンガ島に着いて、最初はホテル探し、ガイドブックもないので、空港にあった観光案内のようなものを参考に、ホテルを探しました。バスで首都のある町まで行って、そこでよさそうなホテルに入って、部屋はあるかと聞くわけです。1つ目か2つ目で値段も折り合うところがあり、泊まることにしました。

南国風の建物で雰囲気は良かったです。ゲストが使えるラウンジには、テレビとビデオがありました。近くにレンタルビデオ店があり、自分たちで好きな映画を借りてきて見ることができました。サモアで住んでいる部屋には、ビデオはもちろんテレビもなかったもので、好きなビデオが見られることに大喜びでした。また、ラウンジにはバナナが房ごとぶら下げてあって、好きに食べて良かったので、完熟バナナを満喫しました。バスで島を1周したくらいしか覚えていませんが、新婚旅行のような気分です。

5日間を過ぎました。帰国して6月に入ると独立30周年がありました。独立は1962年1月1日なのですが、毎年6月1日に独立を祝うそうです。

独立30周年ということで、パレードをする事になりました。それぞれの高校から代表が出て、首都の街をパレードしました。学校も休みになり私たちもパレードを見に行きました。パレードといっても、プラスバンドが少しあったくらいで、各校で旗を振りながら行進したくらいです。でも、そういう催しがないので、楽しく見物できました。警察官の制服も初めて見たのですが、上は日本の警察みたいな感じですが、下はラバラバ(スカートのようなもの)でサモアらしい感じでした。

校長先生から、7月に日本人のボランティアが来ると聞きました。海外青年協力隊のボランティアが一人、私たちの学校に派遣されることになりました。海外青年協力隊は9月下旬くらいに来て、少しの間、現地の研修があるそうです。研修といっても、現地の方の家にホームステイして、現地の文化を学ぶことが目的と聞きました。

見沼区 齋藤

おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.org>) でご覧になれます。  
\*ご意見や投稿(本などの感想、特集してほしいことなど)を募集しています。  
FAXか郵送で受け付けています  
〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町2丁目350  
FAX 048-641-2724

